

農業技術 プリズム

長崎県における桃の施設栽培の収穫期は、5月中旬に始まり、6月上・中旬にピークを迎えます。そのため、成熟期が梅雨と重なるため、果実品質や生果率が低下するのが現状です。そこで、桃の梅雨前出荷を目的として、硝酸溶液散布による開花促進と収穫前進化に及ぼす効果について検討しました。硝酸溶液は単肥の硝酸（窒素34%）を希釈して用いました。

その結果、無加温施設栽培のオキナフ台「日川白鳳」の結果枝に、自発休眠覚醒後の保温開始前に硝酸10%溶液を散布することで、開花が促進され、収穫が前進することが明らかになりました。

具体的には、硝酸10%溶液の散布により、累積開花率50%となる時期が、無処理区より2012年は1日、13年は3日ほど早くなりました。開花に続く発

芽も、無処理区と比較して早く見られました。結実率は、無処理区との差はありませんでした。

硝酸10%溶液散布区では、初期の収穫果率が無処理区より高まりました。無処理区と比較して保温から開花までの日数が短

桃「日川白鳳」の開花促進 硝酸10%溶液が有効 果実品質は変わらず

くなるため、最終的に収穫までの日数が2〜4日短縮できることが明らかとなりました。果実品質は、無処理区との差は見られず、散布による芽枯れなどの薬害は見られませんでした。

休眠打破の発芽促進で適用のあるシアナミド液剤と比較しても、遜色がない結果となりました。

硝酸10%溶液散布と開花結実率、果実品質

処理年	処理区	50%累積開花日(月/日)	累積開花(%) (保温→開花)	結実率(%)	50%累積収穫果(月/日)			果実重(%)	糖度(Brix)	pH	薬害(芽枯)	
					無処理との日数差	無処理との日数差	無処理との日数差					
2012年	硝酸液	3/19bz	-1	79.9ab	6/13	-1	-1	-2	244.3	10.4	4.6	無
	シアナミド液剤	3/18b	-2	67.8b	6/15	-2	2	0	230.7	10.5	4.6	無
	無処理	3/20a		83.0a	6/15				230.9	10.4	4.7	無
	有意性	*		*					ns	ns	ns	一
13年	硝酸液	3/9b	-3	69.8ab	6/7	-3	-1	-4	196.9	9.2	4.5ab	無
	シアナミド液剤	3/11b	-1	55.9b	6/9	-1	-1	-2	196.3	9.4	4.7a	無
	無処理	3/12a		72.9a	6/11				211.3	9.9	4.5b	無
	有意性	*		*					ns	ns	*	一

近年、温暖化の影響で、低温遭遇時間の確保に期間を要し、開花期、成熟期の遅れが懸念されており、引き続き早期出荷に向けた技術開発に取り組んでいきます。

（長崎県農林技術開発センター 松本紀子）